

鳥獣被害防止総合支援事業の評価報告(平成27年度報告)(再報告)

事業実施主体名 国富町有害鳥獣対策協議会

1 被害防止計画の作成数、特徴等

イノシシ・シカ・サル等を対象とした捕獲対策を重点的に実施するとともに、電気柵や侵入防止ネット等の設置を推進し、地域ぐるみで効率的な対策に取り組むこととしている。

2 事業効果の発現状況

本事業を活用した電気柵を設置した結果、事業実施地区では被害が減少した。今後は適切な維持管理によりこの効果を継続させるとともに、他地区への更なる普及を図り、地域一体となった取組みを推進する。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害面積は達成できたが、被害金額の目標到達には至らなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
国富町有害鳥獣対策協議会	国富町	26年度	イノシシ シカ サル タヌキ アナグマ カラス ドバト ヒヨドリ	・研修会 ・電気柵 (2段)	1回 2,330m	国富町有害鳥獣対策協議会	26年度	100%	電気柵設置前に施工方法についての説明会を開催したことにより、適正に施工され、被害防止のための環境整備が整った。	3,300千円	6727千円	-311.0%	45ha	3.1ha	412.2%	被害金額については目標達成とはならなかったが、今後も取組みを継続・強化していきたい。	被害金額が目標達成とはならなかったものの、平成26年度の被害額に比べて農作物では7%減少している。獣種別被害の大半を占めるイノシシ、シカの有害捕獲頭数も大幅に増加しており、捕獲圧の高まりも被害の減少に繋がったと考えられる。しかしながら、町全体としては、まだ農家個別の対策を実施している傾向が強いので、集落一帯となったえさ場の除去や電気柵の適正管理など、基本的な被害対策の周知が必要と考えられる。
		27年度	イノシシ シカ	・有害捕獲 イノシシ シカ ※有害捕獲は緊急捕獲活動支援事業分	321頭 54頭		27年度	100%	本事業等による電気柵の適正な管理の徹底と有害捕獲の進展により、被害額は前年度に比べて減少した。								

注:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

5 第三者の意見

コメント
 本事業等を活用した電気柵等の防護柵設置については、最大限に効果が発揮できるように適切な設置ルートの設定をし、下草管理や漏電のチェックなどの適切な維持管理の徹底が必要である。また、発生初期の地域では事業活用による防護柵の整備の前に、地域住民による集落点検やえさ場の除去等の基本的な対策の周知と情報共有が必要と考えられる。
 (農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 末吉伸一郎)